



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第28号

発行日 2018年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学 菱の美会館内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dousoukai@sadai.jp
ホームページ http://sadai.jp/alumni/

編集代表者 徳安和博



母校のさらなる発展を期して集う仲間あり

佐賀大学同窓会会長 金丸安隆 (農学部・S43年卒)

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、例年11月下旬に佐賀大学校友会主催のホームカミングデーが開催されています。

このホームカミングデーは卒業生に母校を訪問してもらい、母校の現状を知り、学友との再会と交流を深め、さらなる母校への理解と支援の事業であり、去年も11月25日に開催されました。卒業後20、30、40、50年の節目を迎えた方が対象であり、現在は佐賀県、長崎県、福岡県在住の方となっています。内容は学長の概要説明、学生との交流会、美術館見学、懇親会となっています。大学からは学長、副学長、各学部長、関係者、同窓会からは各学部同窓会長が出席します。20～50年と長い年月が経過していますので、大学校内や大学を取り巻く環境の変化に驚かれています。

20歳前後の多感な青春時代をこの佐賀大学で過ごされた思い出は生涯に渡りその人の人生に影響を与えますが、4年間の学生生活の中心は先生方の講義、実験実習、ゼミ等、それにサークル活動、同期生・先輩・後輩との交流、アルバイト等となるでしょう。

2年前の11月に名古屋で東海支部の総会、懇親会が開催されました。宮崎学長も出席されましたが、そこで昭和37年文理学部卒業の矢野 亨さんが次のような話をされましたので紹介します。

矢野さんは佐賀で過ごした学生時代（高津先生のゼミ、不知火寮生活等）がとても思い出深く、楽しい生活だったため家族にもよく佐賀のことを話されていました。そのためか、息子さんも佐賀大学経済学部を卒業し現在大阪で働いておられます。さらに、

そのお孫さんが2年前は中学3年生でしたが佐賀大学の医学部を目指し頑張っているとのことでした。矢野さんは孫が医学部に合格すればその入学式に出席したいと楽しそうに話されました。なんと心温まる話ではありませんか。そして、良きにつけ悪しきにつけ大学生活がいかに子々孫々まで影響を与えるかの話です。

佐賀大学では宮崎学長のリーダーシップの下、佐賀の地域に根差した、面倒見の良い大学を目指し取り組まれており、これからもさらに充実発展することでしょう。

次に、同窓会活動についてですが、同窓会の目的はご承知の通り佐賀大学の発展に寄与すると共に、同窓生の親睦と交流の促進であります。そのため支部の拡大や強化に取り組んでいるところです。現在、県外支部は15支部、県内支部は11地区となりました。

佐賀大学の卒業生は約58,500人となり、全国各地とりわけ西日本や九州で活躍され誠に喜ばしい限りです。

これからも会員の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。



ホームカミングデーの様子

支部だより

佐賀市役所支部

SAGA

平成29年7月31日、佐賀市内の「ホテルマリターレ創世」において、平成29年度の佐賀市役所支部総会及び懇親会を開催いたしました。

懇親会に先立ち総会も開催し、支部長の挨拶では「佐賀市役所支部も再開後5年を経過する中で、若い世代が同窓会への親近感をもってもらう取り組みも今後の課題であり、会員の増加に繋がる活動もしていきたい」と述べられました。

その後の懇親会では、宮崎学長や江口楠葉同窓会長をはじめ10名の来賓の方に参加いただくとともに、支部会員として御厨副市長（支部顧問）ほか34名（会

員約110名）が参加をしたところであります。

特に今年は、最近2年間の新規採用者に声かけを行うことで、昨年の参加者を大幅に上回る参加となりました。

また、毎年、大学や同窓会から10名近い来賓の方々に出席いただくことは、佐賀市役所支部としても大変光栄なことであり、懇親の席においても、支部会員との親睦が大いに図られたところです。

佐賀大学と佐賀市は藻類培養の共同研究をはじめ、さまざまな事業で協力・連携関係にありますので、さらに同窓会支部の活動も活性化に繋げていければと感じております。

支部長 藤田 基明（経済・S56年卒）

福岡地区全学同窓会

FUKUOKA

平成29年7月21日、福岡市天神のソラリア西鉄ホテル「北斗」において、福岡地区全学同窓会を開催しました。

来賓として各同窓会の代表6名と、同窓会会員61名、合計67名のご参加をいただきました。

開会宣言後、物故者への黙祷とこの度の九州北部豪雨災害の犠牲者への黙祷を行いました。

毎回出会うなじみの方、初参加の方、再会した参加者の間で様々な話題が盛り上がり、会場の空間が「あの頃の佐賀大学」へタイムスリップしたようでした。途中、現在の佐賀大学の映像をプロジェクターで紹介し、同窓の皆で新しく綺麗になった佐賀大学を見て驚きの声があがっていました。

盛り上がってきたところで、寮歌・学生歌を全員で歌い会場がひとつになり、先輩・後輩のたて糸と、同期生のよこ糸それぞれに親睦を深め、大暑の中、さらに熱く盛り上がりを見せました。

ちなみに学部別では、文理学部9名、経済学部32名、理工学部8名、教育学部8名、農学部10名の参

加でした。

また、福岡地区支部の同窓会を更に進化させるためにホームページを開設しました（<http://www.sadaifukuoka.com/>）。

今後、ホームページ上で、同窓会の情報等様々な内容をご提供していき、佐賀大学同窓会全体を活性化していきたいと考えています。

支部長 清村 克行（経済・S46年卒）



大分県支部「豊後はがくれ会」

平成29年10月28日、大分市内の「大分アリストンホテル」において、大分県支部「豊後はがくれ会」の総会・懇親会を開催いたしました。

台風22号の影響で雨が降りしきる悪天候の中、同窓会本部から金丸安隆会長をはじめとする3名の来賓にお越しいただき、昨年より4名多い支部会員27名（うち女性4名）が参加して盛会に行うことができました。

牧野支部長のあいさつに続き、来賓を代表して金丸同窓会長にあいさつをいただいた後に総会を開催。総会では、恒例のゴルフコンペなど1年間の経過報告、次年度の行事計画を承認。今年は役員改選の年で、新支部長に清末義信さんを選出。事務局長は留任となり、新体制で新たな1年がスタートしました。

ここ数年、参加者が20～30名程度で、なかなか新しい参加者が増えない状況が続いていることから、開催時期を見直すこととなりました。新たな行事と併せてみなさんの意向を聞きながら、改善を図りたいと思います。

懇親会は新会長のあいさつの後、観光農園を営む高田先輩の乾杯で開宴。余興として第4回「勝ち抜きじゃんけん大会」を開催（4回やれたら恒例と言っ

てよいでしょう)。昨年初優勝の本多さんの連覇はならず、初めてこの総会に参加された高田先輩の奥様が初出場初優勝の偉業!?!を達成しました。奥様は「これで来年も来なくちゃいけなくなったわね」とうれしそうに話されました。

もう一つの恒例行事、巻頭言「南に遠く」は文理OBの谷本先輩が元気に音頭をとられました。「おい〇〇君！おまえ寮におったやろうが。前に出てこんか!!」とステージに呼び出され、6人の先輩に元気な踊りを披露していただきました。

学生時代の昔話や近況報告、仕事や趣味の話など楽しい会話に酒もすすみ、あつという間に時間は過ぎて終宴の時間。みんなで団結を誓うとともに来年の総会での再会を約束して散会しました。

事務局 佐藤 吉昭（農学・H元年卒）



長崎支部

長崎支部が、平成27年に再起動して3年目になりました。

今年は、総会及び懇親会を11月10日(金)18時30分から、ホテルニュー長崎で開催し、大学側から後藤副学長をはじめ、各同窓会から会長の方々にもご臨席いただきました。

支部総会の参加が、37名とやや少なかったですが、出席者の皆さんから、職場にいる同窓生や知り合いの方々にかけていただき、来年は多くの参加者を集めようと誓ったところです。

冒頭、高比良則安氏（S54年経済）の挨拶の後、来賓の後藤副学長、川副同窓会副会長（農学部同窓会長）の祝辞を賜り、濱繁之様（S39年文理）の乾杯の音頭で懇親会が始まりました。

懇親会では、全員に自己紹介をしていただき、在学中の思い出や近況を話していただき、同じ部活だったのかなど、話が弾み、笑いが絶えない中で、若手を代表して田雑陽介様（H19年経済）の万歳三唱で長崎支部総会が終了しました。

今後とも、長崎支部に対しまして、益々のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

支部長 三藤 義文（理工・S49年卒）



支部だより

東海支部「不知火会」

TOUKAI

会員の参加者は18名。名簿上は300名を超えますが、参加者は極めて少ないのが現状です。会を重ねるごとに参加者も歳を重ね、固定化している中、毎回1～2人「初めて参加しました。」という方がいて、次回からの参加を期待する次第です。初めて参加した方は若手で、次回からも参加していただけるのかはその方次第。今まであれこれ会の盛り上げ方をやってきましたが、結局は参加者同士がゆっくりとおしゃべりを楽しむことが一番いいのではと思っています。同窓の先輩と後輩が初めて顔を合わせても気持ちに通じるところがあり、おしゃべりが弾むと

思っています。昭和38年に先輩方が立ち上げた「不知火会」～東海支部～の灯を消さないように私たち後輩がバトンタッチしながら大切に灯し続けていくことを肝に命じて筆を置きます。

(平成29年11月11日、名鉄グランドホテルで開催)

事務局長 御厨 静夫 (教育・S45年卒)



諫早支部

ISAHAYA

平成29年11月17日午後6時より市内「L&Lホテル センリユウ」に於いて本部から宮尾正隆有朋会会長、穂屋下茂理工学部同窓会会長、小池良美農学部同窓会副会長、本部理事平野禎亮事務局長の4名にご出席賜わり支部会員16名の出席のもと開催致しました。先ず全員で記念撮影をし荒木事務局長(農学S50年卒)の司会進行により先ず宮下支部長の挨拶、続いて来賓代表の本部同窓会副会長・宮尾氏にご挨拶を頂きました。そして乾杯の前に約15分間程度、支部役員で諫早市役所勤務の山下浩信課長(理工S61年卒)によるスライド「下水道わくわくワールド大作戦」で諫早市の生活排水下水道処理施設整備事業についての説明がなされ、生活環境問題について興味深い話を伺うことができ、大いに参考になりました。その後、泉副支部長(農学S39年卒)のご発声によ

り乾杯、懇親会に入りました。途中、ご来賓各氏より各々最近の状況についてのご報告があり切実なる現況を知り得ることができました。当日は天候が悪くこの秋一番の冷え込みではありましたが懇親会は熱気に包まれ、「来年は欠席者をぜひ誘って来よう」との雰囲気が大いに盛り上がり終了致しました。

支部長 宮下 武美 (文理経済・S41年卒)





佐賀県内地区会



鳥栖・基山地区会

平成29年7月9日(日)12時30分より15時までサンメッセ鳥栖で開催しました。本部より金丸安隆同窓会会長はじめ各学部同窓会長や代理の方々及び理事長を含めて6名のご臨席を頂きました。

総会は、鈴木正美地区会長のあいさつに続き、金丸会長から同窓会としては、就職の世話を含めた面倒見のいい大学を目指している等々現状報告をして頂きました。

次に、各学部長等からのお話は懇親会の中で伺うことにして、議題の審議に入りました。議長を昨年度の設立総会時と同じく尼寺学氏にお願いして議事を進行しました。中身は規約改正です。毎年行う総会を2年に1回に変更する提案です。取り組む時間に余裕を持たせ、内容を充実させようという考えです。全会員の賛成を得て規約が改正されました。

懇親会では、今回は来賓からだけでなく、参加した会員全員からもお話を伺いました。30名の現状は様々で、職種や趣味もいろいろです。その中で、楽

しい話や苦勞話を伺い一体感が生まれたように感じました。

今回参加者の中で、一般会員は総会31名懇親会30名でした。緒方克成氏は、懇親会には参加できないが、総会には参加できると早朝より準備を率先して引き受けて頂きました。感謝申しあげます。

最後に閉会のあいさつの中で、幹事の橋崎タキコ氏より参加して楽しかったかどうかを問われましたが、全員が楽しかったという返事でした。2年後も参加して良かったという会を目指します。

事務局長 渡辺 哲弘 (教育・S52年卒)



佐賀市地区会

平成29年8月6日(日)午前11時から「グランデはがくれ」において、2回目の同窓会を開催しました。案内文の発送は前回同様約2200枚でしたが、出欠の回答数は311枚で前回より110枚の減、参加者は40名で20名の減でした。通信費のことを考えて、前回回答を頂いた421枚に限定をしたらとの意見もありましたが、だんだんと先細りになる可能性が高く、少なくとも住所が判明している同窓生には案内文を送ることにしました。各学部の同窓会で発送の手段を工夫してもらうことで通信費の削減に努めました。ただより多くの同窓生へ案内をし、参加者を増やしていくためにはクリアすべき課題が多いのが現状です。

今回は、宮崎学長に「地(知)の拠点 佐賀大学」の演題で1時間程度のお話を聞く時間を設けました。今後の目指す大学像として「IoT・AI化・ロボテックス・ビッグデータ活用」「第4次産業革命への貢献」「未病・予防医学等未来の医療の在り方を変える」「新たな農産物の創出と人材育成」「スペースマネジメントによる産学連携推進」などやや難しい面もありましたが、夢のある話を聞くことができました。大

学進学を考えている子供にも聞かせてやりたい内容でした。

その後、円卓を囲み学部の枠を越えて懇親を深めました。その間女性5人によるサクソフォンアンサンブルグループ「プリリアントカラーズ」による演奏が行われ、会場もおおいに盛り上がりました。このグループの出演については有朋会の地区世話人、永野篤子・西佐枝子両校長のご尽力に感謝します。

また、今回は出席者名簿に、返事を頂いたうちの57名の近況報告を掲載しました。次回の参加に繋がることを期待したいものです。

世話人 江口 洋一 (経済・S49年卒)



神埼地区会

神埼地区会は3回目開催を平成29年9月30日(土)に割烹「菊水」において午後5時より、金丸同窓会長、西村医学部同窓会長、江口楠葉同窓会長、島理工学部同窓会副会長、平野事務局長をご来賓としてお迎えして開催しました。

今年も神埼会規約により、会員の親睦と交流をメインにした内容を心がけました。前半を総会とし、会員の知的好奇心を刺激して、また会員の中から自発的に神埼会を大事にしたいという雰囲気が出てくるように学部を横断的に巡回していくようにした特別講話を実施しました。

今年も神埼会の会員でもある西川記世氏に、先生自身が長年にわたり活動してこられたガールスカウト活動を通じて気づかれた「郷土教育の大切さを広げよう」をテーマに約60分程度の講演をしていただきました。パソコン・プロジェクターを使った写真付きの内容と話術に会員はそれぞれ魅了され、有意義な時間を過ごさせていただきました。

また、総会のメインとなる協議・報告では一期2年の役員について会長ほか役員の新任について承認していただきました。その後、恒例により総会終了後に記念撮影を行いました。お蔭様でこの写真は10

月9日の佐賀新聞に掲載されました。この後交流会に移り、花田副会長の開会の挨拶に始まり、江口、西村両会長より祝辞をいただきました。今年は乾杯の前に、神埼会の会員4名が習い覚えた巻頭言の口上を行い、同窓会の伝統を披露させていただきました。その後、参加者を代表して田中欽二氏の乾杯のご発声で交流会が開宴しました。

限られた時間の中で卒業年次・学部の違う老若男女が少しでも心を開いた交流会にするために式次第の中に時間の流れを考えて、山場2つを想定した出し物を行い、最後の方では参加者に歌詞を配布し、佐賀大学学生歌「楠の葉の」を合唱して会を盛り上げ、閉会の挨拶を吉岡氏にさせていただいて、無事お開きとなりました。

神埼地区会 会長 古賀 季夫 (経済・S50年卒)



武雄地区会

平成29年11月25日(土)16時より、武雄市の「八百重」において、「佐賀大学同窓会武雄地区会」の総会並びに懇親会を開催しました。

今回の総会には、有朋会、楠葉、医学部、理工学部、農学部同窓会より会員15名、それに佐賀大学同窓会の金丸会長、各学部同窓会副会長・理事の5名にご出席いただきました。特に、金丸会長はじめ同窓会役員の皆様方には、いろいろな行事が重なっている中にお時間を作ってご出席いただき感謝申し上げます。

総会におきましては、金丸会長より、挨拶並びに佐賀大学同窓会の現状について、お話をいただきました。これを受けて、新役員並びに「佐賀大学同窓会武雄地区会規約」の提案を行い、出席者全員の承認を受けることができました。

親睦会では、乾杯の後、各学部同窓会の本部代表の方から、各部の同窓会の現状と取り組みについて報告をしていただきました。私たちは、佐賀大学を卒業しているものの、学部や卒業年度が違うため初

めて出会う人も多かったのですが、ゆっくり話が出来たことでお互いの懇親を深めることができました。今回の会員の参加者は昨年度より少ない15名でした。来年度は開催時期を考慮して、総会・懇親会だけでなく、研修会等を含めて開催し、さらに多くの会員の皆様に参加していただきたいと考えています。

そして、この総会・懇親会を機に、学部を越えて親睦と交流を促進することで、少しでも母校の発展に寄与していきたいと思っています。

寒い中にご出席いただいた皆様、誠にありがとうございました。来年度もよろしくお願いいたします。

武雄地区会 会長 稲田 義邦 (教育・S50年卒)



伊万里地区会

第3回佐賀大学同窓会 伊万里地区会は、平成29年11月25日(土)、伊万里公民館の研修室において開催しました。

今回は、佐賀大学同窓会より川副副会長をはじめ、各学部の同窓会役員、伊万里地区会員30名の参加者を得て、盛大に開催することができました。

総会では、会員発表として、木本耳鼻咽喉科医院長の木本信二氏(医H元卒)に、「私が医者をめざした理由」と題してご発表をいただきました。

交流会では、オープニングセレモニーとして顧問の岩永憲一良氏(教S34卒)の仲間でのハーモニカによる伴奏で全員で「ふるさと」を合唱しました。

その後、盃を汲みかわしながら学生時代の懐かしい思い出話に花が咲き、和やかな懇親会となりました。最後には、伊万里のうまかもんばもって帰ろう

と「お楽しみ抽選会」で交流会を閉じました。

これからも、学部を超えての親睦と交流を深め、母校の発展に寄与するとともに、地域の活性化に貢献していきたいと思っております。

まだ出席いただいていない伊万里地区の皆さん、来年こそは、是非ご出席ください。懇親会費のみで年会費等は不要です。お待ちしております。

伊万里地区会 会長 小杉 道久(教育・S42年卒)



県内地区会役員会

今年度も県内地区会役員会が7月29日(土)に開催され、11地区から20名の役員の参加がありました。開会の後、宮崎佐賀大学学長の挨拶と大学も法人化と少子化による受験生の減少などの問題を抱えていることなどの講話があり、次に金丸会長が県内には1万4千人の同窓生が居り、大学をサポートすべく地区会を立ち上げたことなどの挨拶がありました。その後、3分程度ずつの各学部同窓会総会の開催や状況など現状報告があり、理工学部では本年度から学外同窓生にも広く案内し開催することになりましたとの報告がありました。

次は私が支部強化部からの報告を行いました。いくつかの支部や地区会の総会に参加させていただき、そのときの様子を報告しました。神埼地区会では山田直行先生が佐賀城と桜、有明海、唐津くんちなどのスケッチをスライドを使って思い出話も交えて楽しく話をしてもらいました。また、熊本支部では農学部卒の方が「熊本県農産物のブランド戦略、イチゴの新品種(ゆうべに)の取り組み」について・医学部卒の耳鼻科の先生が「鼻炎・鼻詰まりの実態と対策」について専門的立場から分かりやすく話をしてもらいました。宴会での余興やアトラクションとして詩吟・日本舞踊・尺八・三線などが披露され和

やかな楽しい会となりました。また、「巻頭言と寮歌・南に遠く」と学生歌「楠の葉の」を応援団風に振りをつけての練習会を行い、佐賀青春寮歌祭に参加したり、支部会や地区会で披露したりしていることなどの報告を行いました。

次に11の地区会から状況報告がなされました。役員の方々は魅力ある地区会作りに努力され、またご苦勞もされているようでした。また、3つのグループに分かれ意見交換がなされ、お互いに他地区会の状況を知ることが出来て参考になったようです。途中で弁当が配られ、会食しながらの和気藹々とした交換会になりました。

支部強化部長 島 公二武(理工・S50年卒)



同窓会NOW

有朋会（教育）

有田に新しい風が吹き始めました

芸術地域デザイン学部 甲斐 広文（教育・H元年卒）



私は昭和60年に佐賀大学教育学部特別教科（美術・工芸）教員養成課程の工芸専攻に入学し、教育専攻科を経て昭和60年開校の佐賀県立有田窯業大学校に勤め始めました。それから27年後に職場が佐賀大学の有田キャンパスへと変わりました。

芸術地域デザイン学部は平成28年度から新設されましたが、有田キャンパスは今年の4月から開設され、第2学年生が学び始めています。

学部の芸術表現コースと地域デザインコースの1年次は本庄キャンパスで学び、芸術表現コースのうち、有田セラミック分野を選択した学生が2年次から有田キャンパスでも学ぶこととなります。

4月7日に門標除幕式、7月12日に開設記念式典が行われ広く町内外の方へお披露目をしました。8

月5日にはオープンキャンパスが開催され、地域の方々や高校生が多数参加し、ロクロや鋳込み成形を体験しました。

有田キャンパスは、まさに地域で学べる恵まれた環境、自然に囲まれ、落ち着いて制作できるキャンパスです。現在は有田セラミック分野を選択した2年生と院生がバスで訪れて授業を受けています。来年、再来年には4年生まで充足し、賑やかなキャンパスになることでしょう。そして地域ともつながりを持ったキャンパスになっていきます。

有田の町に新しい風が吹きはじめています。卒業生の皆様、有田キャンパスの応援をよろしく願いいたします。

同窓会NOW

楠葉同窓会（文理・経済）

楠葉同窓会交流会に参加して

松尾建設株式会社 管理本部 能力開発・人事部 能力開発・人事課 坂本 裕三（管理・H3年卒）



平成29年度の楠葉同窓会交流会が10月28日に開催され「就職に関するガイダンス」に参加しました。当日は学生の就職活動に関する不安等を事前にアンケートし、それに対する回答者として学生の前で話をさせて頂きました。

私は佐賀市内の企業で採用担当をしており、学生の前で話すことは慣れていますが、後輩に対するアドバイスということではいつもとは違う緊張感がありました。

ここ数年は景気回復に伴う企業の採用意欲の高まりと、若年層人口の減少により、あのバブル期以上の空前の売り手市場とされています。特に国公立大学、有名私立大学の学生の人気は高く、民間企業はもとより、地方自治体、警察、消防などからも学生に受験を勧める通知が届くなど、私の学生時代では考えられない状況となっています。民間企業の採用担当者としては、いかにして学生に受験対象として選んでもらうか日々頭を悩ませています。

そのような状況のなか、交流会に参加したのですが、今回参加してくれた学生に浮かれた様子は全くなく、逆に就職活動に対する不安を抱えていること

が分かり、私が持っていたイメージとは大きく違うことに驚きました。

事前アンケートにも「面接でよく聞かれることは何ですか?」「人前でうまく話せるコツがあれば教えてください」などたくさんの質問をしている学生と接してみて、現実には甘くないのだと今の状況を冷静に捉えていることに安心感を覚えました。

採用担当者として佐大生と接する機会が多いのですが、他校の学生と比較して真面目さや人付き合いの良さを感じています。一方、自分を積極的にアピールすることは苦手だなと感じています。就職活動は競争ですので、真面目さだけでは内定は勝ち取れません。今後の採用活動のなかで佐大生と接する機会があれば、もっとアピールすることを伝えて、後輩たちが希望する道に進めるよう微力ながら応援していきたいと思えます。

今回の交流会への参加は、学生の本音が分かり企業の採用担当者として大変有意義なものになりました。参加させて頂き誠にありがとうございました。

同窓会NOW

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会

佐賀大学病院の近況

佐賀医科大学・佐賀大学医学部同窓会 副会長 **江村 正** (医学部・S62年卒)

佐賀大学病院は、医学部の同窓生にとっては、学び舎であり、卒業後の最大の職場であります。他学部同窓生の方々からすると、「お世話にならないに越したことはない」けれども、「最後の砦としての安心の場所」であると言えると思います。

近未来・高度医療への対応、地域医療への貢献、教育研究機能の強化、病院管理・運営の効率化、地球環境への配慮をコンセプトとして、平成24年より再整備が始まりました。屋上にヘリポートを併設した南診療棟と北病棟の完成、西病棟の改修に引き続き、先日、東病棟の改修工事が終了しました。9月30日に病棟移転が無事済んだところです。

最終的に外来棟まで完成し、全体が竣工するのはもう暫くかかりますが、東西病棟が出来上がり、何となく、少し落ち着いた気持ちで仕事ができるような気がしています。



東病棟 外観南面

同窓会NOW

菱実会 (理工学部同窓会)

佐嘉神社記念館での平成29年度理工学部同窓会総会

佐賀大学理工学部同窓会 副会長 **中島 道夫** (化学・S47年卒)

楠葉同窓会から平成11年に分離独立して以来、初めて大学構内を出て、平成29年9月2日、佐嘉神社記念館で本格的な総会・講演会・懇親会が開催されました。

総会では平成28年度事業報告、決算報告、監査報告、平成29年度事業計画、予算案の定例の審議を行い、承認が得られました。その後、佐賀県政策部企画課企画担当係長として活躍されている円城寺雄介氏(佐賀大学出身ではありませんが佐賀県出身)の「ドローン、ロボテクス、IoTが作る近未来社会の可

能性」— 佐賀の救急車iPadから救急ドローン、実例からの報告— と題された実績に基づいた活動に関するご講演を拝聴しました。佐賀における先端技術の実践の取り組みに力強さを感じられました。

会場を移し、懇親会では、各学部同窓会の代表や学部長、学科長のご参加をいただき60名超の規模で色々な意見交換や交歓の場となり、今後、皆様の多数のご参加をいただき、さらに同窓会の交流の規模が拡大されていく予兆を感じさせる総会となりました。



同窓会NOW

農学部同窓会

本庄キャンパスにICT・IoTビジネスの拠点 ~佐賀から事業展開する株式会社オプティムの本店~

農学部同窓会 副会長 小池 良美 (農学・S56年卒)

ICT (情報通信技術) やIoT (モノのインターネット) の分野で事業展開する株式会社オプティム (OPTiM) の研究拠点を備える本店が、佐賀大学本庄キャンパス内に10月20日移転しました。

同社 (代表取締役社長: 菅谷俊二氏) は、2015年8月に佐賀大学農学部、佐賀県生産振興部 (現農林水産部) との間で「IT農業における三者連携協定」を締結し「楽しく、かっこよく、稼げる農業」をかかげ、その実現に向けて佐賀から展開する新進企業であり、東証一部に上場している企業が国立大学のキャンパス内に本店を構えること自体も国内初の試みです。

開所記念式典には、県内経済界ほか幅広い分野から関係者約250人が訪れ、テープカット後の施設内覧では、AI・IoT・ロボットなどを紹介するコーナーに多くの参加者が足を止めて、興味深く見聞されておりました。

菅谷社長は、生物生産学科 (施設農業生産学) の平成14年卒であり、式典あいさつでは、学生当時の思い出にも触れながら「労働人口の減少という課題を抱える九州は、最先端技術を確立させる一番いい場所。佐賀から第4次産業革命を実現させたい」と意気込みを語り、宮崎耕治学長からは「実学に近くで触れられるのは研究、教育にとって大きなプラス。企業との連携にこれからも力を入れていく」と、さらなる抱負を語られました。

近年、IT農業の分野では「アグリドローン」など、三者連携のもとで生み出されています。また医療分野でも、医学部、附属病院との連携で医学的知見、臨床データ、AI・IoT技術の融合をすすめるメディカル・イノベーション研究所が設立されていますし、さらに有明海特産・佐賀海苔に関しても、病害・赤潮の発生予測やその対応策検討に、県、大学、県有明海漁協、農林中央金庫、NTTドコモと同社の六者間連携協定のもとで始まっています。



1 オプティム・ヘッドクォータービル全景を望む
2 テープカットに臨む菅谷社長 (中央右) と宮崎学長 (中央左) ほか

寮歌は老化を駆逐する —第25回佐賀県青春寮歌祭に参加しました—

農学部同窓会 理事 水田 和彦 (農学・S51年卒)

寮歌と聞くと旧制高校のものと思いがちですが、佐賀県で行われているこの祭りは、旧制高校だけでなく、全国の大学に歌い継がれている寮歌や校歌をその同窓生が集い歌う祭りです。今年も北海道大学を皮切りに全国から25の学校から約500名の参加を得て、最後の早稲田大学まで5時間半のロングランで盛大に開催されました。

我が佐賀大学同窓会も金丸会長を先頭に、卒業生20名、現役のコーロカンフォラ部からも20名の計40名で参加しました。披露した曲目は「不知火寮巻頭言」に続き「昭和七年寮歌」「学生歌」また (みんなで歌おう) の中でも「吉井浜思ひ出の歌」が全員で歌われました。巻頭言は名古屋から参加された高松氏 (昭37年文理卒) でその気合いの入った声に参加者一同大いに声高らかにかけ声を合わせました。また、学生歌は昨年からの日のために練習してきたメンバーで音頭を取り、最後のエール「フレーフレー佐大」まで全員の協力を得て賑やかに舞台を飾ることが出来ました。参加いただきました皆さんありがとうございました。

思うに、地元にいる私たちは、寮生や応援団の経験が無く巻頭言やエールを送ることには慣れていません。そこで金丸会長の発案で「寮歌は文化である」との考えからこれを受け継ごうと各学部から数名が集い練習することになったのです。今回初披露でしたが、今後各地の同窓会でもそんな場が持てれば幸いです。また、興味のある方は是非同窓会事務局までご連絡を。なにせ「寮歌は老化を駆逐」出来るのですから。



佐賀大学同窓会は学生の就職や 大学祭などの支援活動を行っています！

キャリアデザイン講座

これまで佐賀大学同窓会では、「公務員」「教員」「民間企業」から講師を推薦し、学生へ就職支援の働きかけをやってきました。平成29年度から「芸術の知識を生かしたキャリアデザイン」の講師も推薦しています。経済学部4号館の5番教室で受講生は、先輩の体験から発せられるメッセージを、熱心に聴き入っていました。

「公務員としてのキャリアデザイン」 11月15日(水)

講師：楠田 詞也氏（経済学部 平成23年卒）【佐賀県庁 統計分析課 勤務】

ご自身の給与支給明細書や勤務時間、年休の取得状況を提示し、公務員の実情について学生に興味を持たせてから講義が始まりました。県庁に勤めて部署ごとの仕事内容を説明しながら、公務員の仕事の多様性とやりがいについて説明がありました。大学生のうちに心がけておきたいこととして、「考えて過ごすこと」「外を意識すること」を熱く語られました。

「教員としてのキャリアデザイン」 11月22日(水)

講師：江副 真弥氏（文化教育学部 平成18年卒）【佐賀市立日新小学校 勤務】

今回このお話を受けこれまでの自分を振り返るきっかけになったこと、教師を目指そうと思ったきっかけになった教育実習のこと、受け持っている子どもたちとの様々なかかわりから子どもの成長を感じることができたことなど、教師の魅力について熱く語られました。学生たちに「視野を広げて欲しい、たくさんの人脈を作って欲しい、何をしたいか見つかったら努力を重ねて欲しい。」と、江副さんから熱いメッセージが送られました。

「民間企業でのキャリアデザイン」 11月29日(水)

講師：平尾 泰博氏（理工学部 昭和53年卒）【佐賀大学 地域創生推進センター 勤務】

講師：手島 誠氏（理工学部大学院 平成22年修了）【前川製作所 機器設計グループ 勤務】

前段は、企業人として働いてこられた平尾さん。「企業は生き物である」指示待ちではなく、会社の中で自分は何をしないといけないのか考えることが必要であること、そして、企業にとって一番大事なものは人であることを力説されました。後段は入社8年目の手島さん。学生と社会人の違い、社会で求められる力、学生時代に得た社会に必要なものなど、自分がこれまで経験されたことを熱心に話されました。

「芸術の知識を生かしたキャリアデザイン」 12月6日(水)

講師：井上 泰宏氏（文化教育学部 平成18年卒）【株式会社 西鉄エージェンシー・ソリューションセンター 勤務】

自分自身「山あり谷あり」の経験をしてその経験が今につながっているので、失敗も大事であることを強調されました。社会で求められるものとして、①就職してからどうするか ②芯をしっかり持って進む ③自分は何をすべきかを持つ ④自分に自信を持つ ⑤相手には常に敬意を持って接する。など、学生の皆さんに自分の経験から学んだことを話されました。



第20回 佐賀大学大学祭

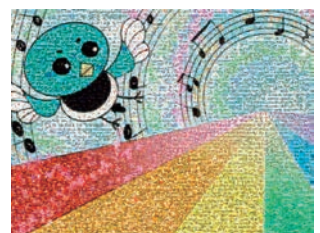
平成29年10月21日(土)、22日(日)の2日にわたり、佐賀大学本庄キャンパスで、第20回佐賀大学大学祭を開催する予定でした。しかし、台風21号の影響により2日目の開催を中止し、21日だけの開催になりました。また、特設ステージも強風のため設営を断念し、急遽体育館でステージイベントを行いました。大学祭を楽しみにいただいていた来場者の方々、並びに各サークル・団体の皆様、地域住民の皆様、大学職員の皆様にはお詫びと心よりの感謝を申し上げます。

大学祭は1日開催となりましたが多くの皆さんに会場いただきました。特に「ミニオープンキャンパス」では佐賀大学の各学部の教授による公開講義を行い、中高生だけではなく地域住民の方々に講義を通して佐賀大学の魅力をより身近に感じていただけたのではないのでしょうか。また、「フォトモザイクアート」においては写真提供を佐賀大学の生徒だけではなく地域住民の方々にもご協力いただきました。これ

によって佐賀大学大学祭へ足を運ぶきっかけとなったと考えております。

最後になりましたが、第20回佐賀大学大学祭のテーマ『奏』には、来場者をはじめとする大学祭に関わる全ての方々とともに大学祭を彩るという想いが込められています。皆様の協力があったからこそ台風という逆境に負けずに素晴らしい大学祭をともに作りあげることができました。来年度は今年よりもさらに皆様を満足させる大学祭となるように精進いたしますので、どうかよろしく願いいたします。

佐賀大学学園祭中央実行委員会 委員長 権藤 裕史



キャンパスマップ Campus Map

鍋島キャンパス・有田キャンパスは次回掲載予定です。

本庄キャンパス 〒840-8502 佐賀市本庄町1 Tel. 0952-28-8113 (代表)
Honjo Campus



同窓会の動き (H29.7~H30.2)

- 7.29 佐賀県内地区役員会/菱の美会館
- 10.12 佐賀大学同窓会「第3回代表役員会」・第4回学習会
/菱の美会館
- 19 佐賀大学同窓会「秋期定例役員会」・第5回学習会
/菱の美会館
- 11.18 第25回佐賀県青春寮歌祭/エスプラッツホール
- 25 佐賀大学ホームカミングデー/佐賀大学本庄キャンパス
- 12.14 佐賀大学同窓会「第4回代表役員会」・第6回学習会
/菱の美会館
- 平成30.
- 1.1 佐賀大学同窓会会報「楠の葉」No28号発行
- 2.15 佐賀大学同窓会「第5回代表役員会」・第7回学習会
/菱の美会館 (予定)

平成29年度 同窓会地区会及び支部会の開催

地区会	支部会
7.8 鳥栖西山地区会	5.14 熊本支部会
8.6 佐賀市地区会	7.21 福岡支部会
9.30 神埼地区会	31 佐賀市役所支部会
11.25 武雄地区会	10.28 大分支部会
// 伊万里地区会	11.10 長崎支部会
(予定) H30	11 東海支部会
2.10 唐津地区会	17 諫早支部会
3.4 三養基地区会	(予定) H30
	1.27 鹿児島支部会

ご意見
メール
等募集

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受け付けております。

住所変更等
ご連絡の
お願い

住所等が変更になられた場合は、必ず同窓会事務局へご連絡ください。E-mail: dousoukai@sadai.jp
Tel: 0952-23-1253 Fax: 0952-25-5700